

シタテル株式会社

I M A G I N A T I O N

sitateru<sup>®</sup>  
IMAGINATION



VISION

# I M A G I N A T I O N

人々の想像力を解放し、人類の豊かな未来をつくる。

シタテル株式会社ではビジョンに「-IMAGINATION-人々の想像力を解放し、人類の豊かな未来をつくる。」を掲げています。何かを想像するという行為は、決して特別な才能を持った人だけのものではありません。「想像する力-IMAGINATION-」すべての人々が未来に向けて、無限の可能性を秘めたイマジネーションを解放し「知的想像」と「創造的想像」を調和させ、より豊かな社会、そして未来をつくっていきたい。そんな思いからシタテルのビジョンに「IMAGINATION」を掲げました。あたらしい社会の循環とイマジネーションあふれる世界にするために、私達も自らイマジネーションを発揮し、事業に取り組んでいきます。

sitateru<sup>®</sup>  
I M A G I N A T I O N

## 会社概要

# 基本情報

会社名	シタテル株式会社
URL	<a href="https://sitateru.com/">https://sitateru.com/</a>
設立	2014年3月
所在地	本社：熊本県熊本市中央区水前寺公園28-23 2階 東京支社：東京都目黒区青葉台3-1-19 青葉台石橋ビル8階
代表取締役CEO	河野秀和
役員	鶴 征二 / 取締役COO 中野 創 / 取締役CFO 経営企画・管理 和泉 信生 / 取締役CTO 開発・R&D
社員	89名 (2021年9月時点)
主な取引銀行	三菱UFJ銀行 みずほ銀行 熊本銀行
主な株主	株式会社海外需要開拓支援機構 (クールジャパン機構) / Spiral Capital株式会社 / 株式会社丸井グループ / Bonds Investment Group株式会社 / 三菱UFJキャピタル株式会社 (順不同) 他複数社
主な取引先	株式会社ベイクルーズ / 株式会社アーバンリサーチ / 株式会社ナノ・ユニバース / JAXA freee株式会社 / 株式会社資生堂 / 株式会社アンリアレイジ / 株式会社スターフライヤー / 株式会社TBSテレビ / 株式会社アダストリア / 株式会社博報堂 / 株式会社丸井グループ / 株式会社コーセー / スターリゾート株式会社 他
事業内容	インターネットによる衣服およびライフスタイル製品生産のプラットフォーム事業



# 沿革

2014

- ベンチャーキャピタル数社より「シードラウンド」にて資金調達を実施
- 衣服生産プラットフォーム「sitateru(シタテル)」をリリース
- 経済産業省「IoT推進のための社会システム推進事業」IoTスマート工場プロジェクト始動

2015

- ベンチャーキャピタル数社より「シリーズAラウンド」にて資金調達の実施
- 第2回MUFGビジネスサポート・プログラム「Rise Up Festa」にて優秀企業賞受賞
- テレビ東京「ガイアの夜明け」【“ニッポン製”の逆襲が始まる！】にて特集

2016

- 総務省「ICT地域活性化大賞2016」大賞受賞
- 日本経済新聞 朝刊1面掲載
- テレビ東京「ガイアの夜明け」【熊本に生きる！】にて特集
- Apple表参道にて「ファッション×テクノロジー」sitateru x Apple開催

2017

- NHK「おはよう日本」【ネットを活用 新たな“服づくり”】にて特集
- Forbes JAPAN『CONNECTED INDUSTRIES 日本発凄いアイデア50』に選出
- ACC TOKYO CREATIVITY AWARDSクリエイティブイノベーション部門「ACCゴールド」受賞

2018

- ベンチャーキャピタル数社より「シリーズBラウンド」にて資金調達の実施
- テレビ東京「WBS」【イノベンチャーズ列伝】にて特集
- 週刊東洋経済【すごいベンチャー100】選出
- Business Insider Japanにて掲載

2019

- クラウド上のデジタル衣服生産管理サービス「sitateru CLOUD」リリース
- 在庫ゼロの受注生産一体型ECパッケージ「sitateru SPEC」リリース
- 衣服のWEBカスタマイゼーションサービス「sitateru CSTM」リリース

2020

- ベンチャーキャピタル数社より「シリーズCラウンド」にて資金調達の実施
- アジアの革新的な企業を選出するアワード「Red Herring Top 100 Asia」を受賞
- 朝日新聞 夕刊掲載

# シタテルについて

## MISSION

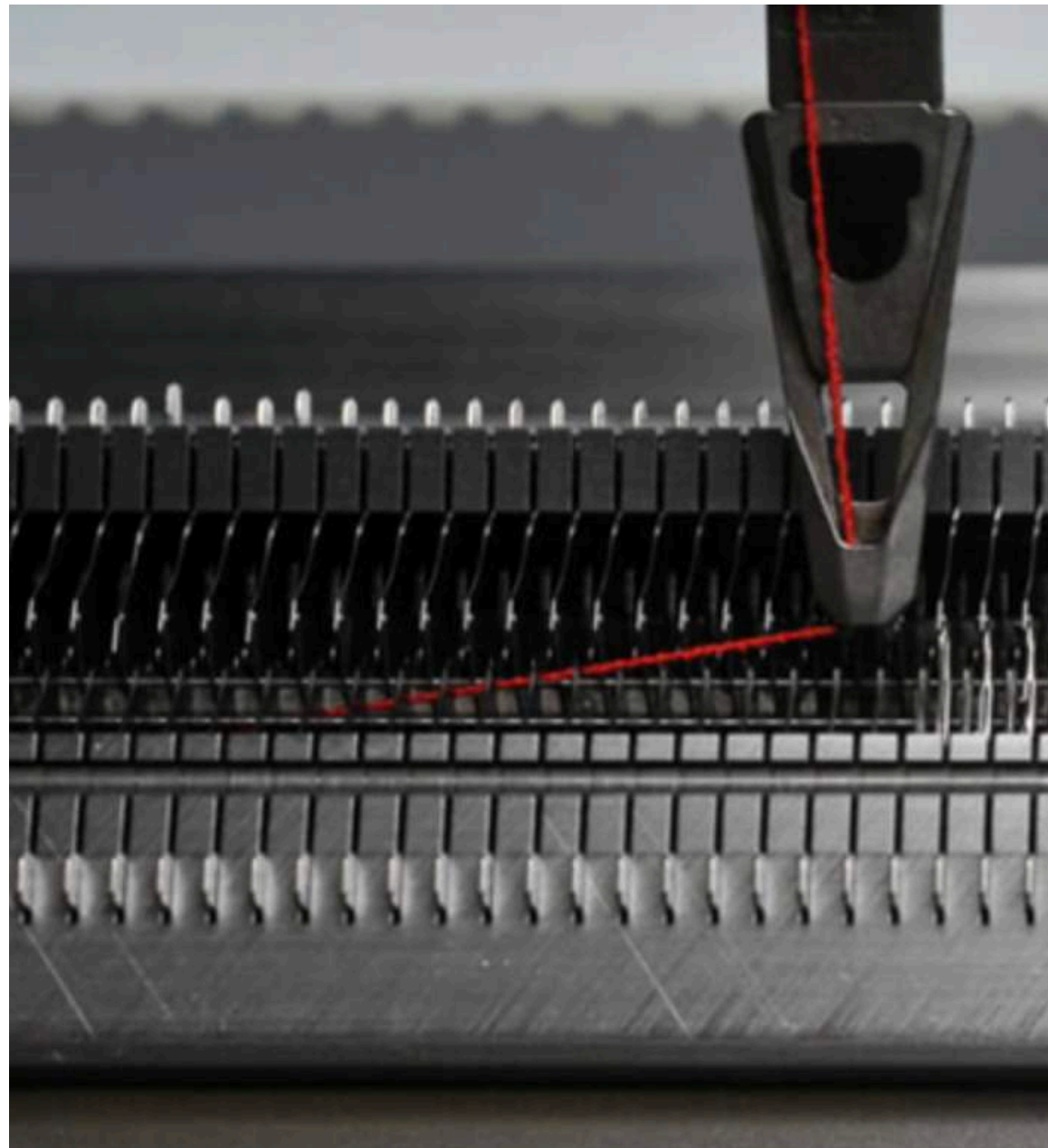
---

### ひと・しくみ・テクノロジーで 衣服の価値を変える。

ライフスタイルや人々のニーズが多様化、市場は細分化する中で、人々の生活基盤である衣服産業は長年にわたり、デジタル化の遅れにより多重構造化、大量生産・大量廃棄、在庫問題等様々な課題を抱え続け、サプライチェーンは益々複雑化してきました。また、パンデミック後の消費者は、より社会性を意識した購買へとシフトしています。

シタテルでは衣服を中心に、ライフスタイルの急速な変化に伴う課題に対して、「ひと・しくみ・テクノロジー」により形成された、新しいプラットフォーム通して、サプライチェーンに関わる全ての人々が場所に依存することなく、円滑にコミュニケーションを取り、スムーズに仕事を行える環境をつくり、これまで極めて閉鎖的だった環境をオープンにすることを掲げています。

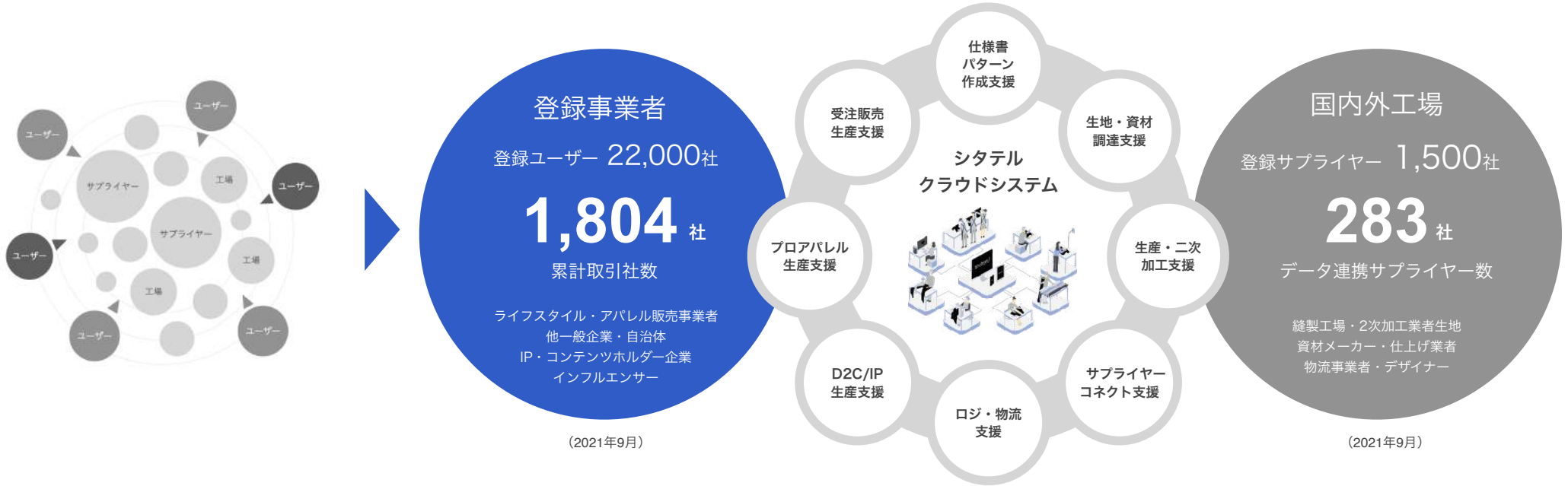
このミッションを達成することで衣服・ものづくりの新基盤が形成され、人々が持つ想像性を向上し、「経済性」と「社会性」を両立させ、その先にあるビジョンの実現へと繋がります。





# 産業が抱える3つの大きな課題と持続可能なPFビジネスモデルによる課題解決

シタテルのビジネスにより、「産業課題の解決」「関わる事業者の課題の解決」「取引の機会創出」等を実現



混沌とした産業構造を、シタテル独自のネットワークにより様々なアイテム、生産ロットに対応。

バリューチェーン上の生産工程の上流部分から販売支援・物流まで幅広く支援

### ■ネットワーク効果による拡大

ネットワーク外部性によるPF利用ユーザーの増加および、国内を中心とした1,200社を超える高い技術を持つサプライヤーネットワーク（DB）とパートナー連携により新しい素取引の機会創出や材・技術等の発見も

### ■業務効率化

クラウドの機能提供を中心としたDX推進、ワークフロー支援による業務効率化と、様々なユーザーのバリューチェーンにおける課題に対して、販売支援から生産OSまで業務の最適化・補完を実現できる機能開発を実行

### ■ナレッジとサービス拡充

これまでにない業務課題単位での独自のコミュニケーション設計とチャネルのフラグメンテーションによるQR対応、在庫リスクの軽減、パッケージ等PF精度向上とナレッジ化を実現



# クラウドサービスについて

# シタテルのクラウドサービスとは

衣服バリューチェーンに必要な様々な機能・パッケージをクラウド上で提供



## 衣服製/販業務を次のステージへ

IT化が遅れアナログで属人的ワークフローが多いアパレル実務（販売～生産）をクラウドでデジタル化支援。素材調達や生産管理を支援する「生産支援」と受注販売・企画などで販売を支援する「販売支援」等パッケージを展開。

(生産アカウント課金・従量課金1:工場コネクト、ec利用、生地資材調達 従量課金2:コンシェルジュ型生産)



## 導入状況と評価

サービスリリース1年で300社を超えるユーザーに活用いただいております、多くの項目でNO1の評価を受けています



システムツールのおかげで  
これまでに比べてスマート  
に業務が進行できる



LINEとメールのいい  
とこどりの感じで  
やりやすい



新しい工場・顧客との  
出会いが生まれた



使いこなすまで少し  
慣れが必要だったけど、  
慣れてしまえば楽

## サービスの特徴

特に使うユーザーにとっての使いやすさに追求したシステム作りを行っています。

Point  
1

情報を一元管理  
必要な情報を自動出力



アイテム情報をクラウド上に入力  
スケジュールやタスクは自動で出力され  
ます。仕様書・パターンデータ・発注書  
も最新の情報でわかりやすく管理

Point  
2

ボタンやチャットで  
カンタン共有



アイテムや企画ごとに、チャット  
コミュニケーションが可能  
更新された情報は自動で通知  
最小限のやり取りとスムーズな取引を実現

Point  
3

直感的なUI  
シンプルな入力・操作



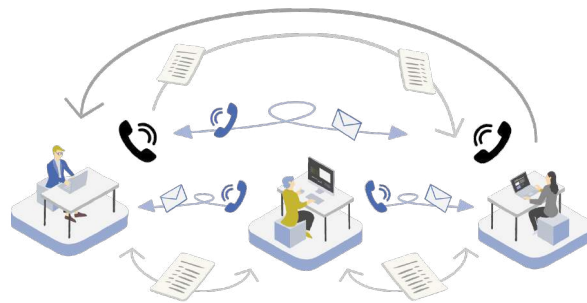
わかりやすいUIだから  
操作はカンタン  
入力負担や作業コストも大幅に削減



## 業務フロー・プロセスの変化イメージ

CLOUDを導入することにより今まで煩雑非効率でミスコミュニケーションも多かったワークフローが効率化されリモートワークにも対応できるようになります

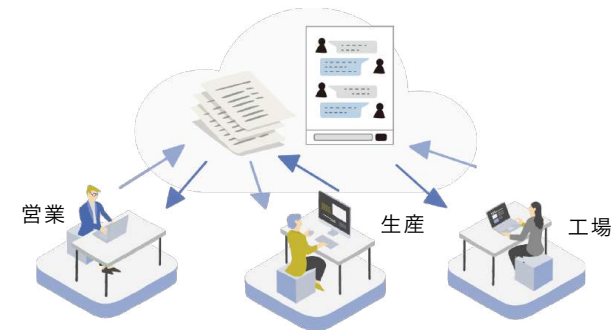
これまでの業務の流れ



- ✓ 社内/工場間の資料管理・共有・コミュニケーションがローカル上でそれぞれになされていて非効率
- ✓ 当事者以外のメンバーから当事者同士のやりとりや状況が見えないので代理対応やサポートが不可

sitateru CLOUD 導入後

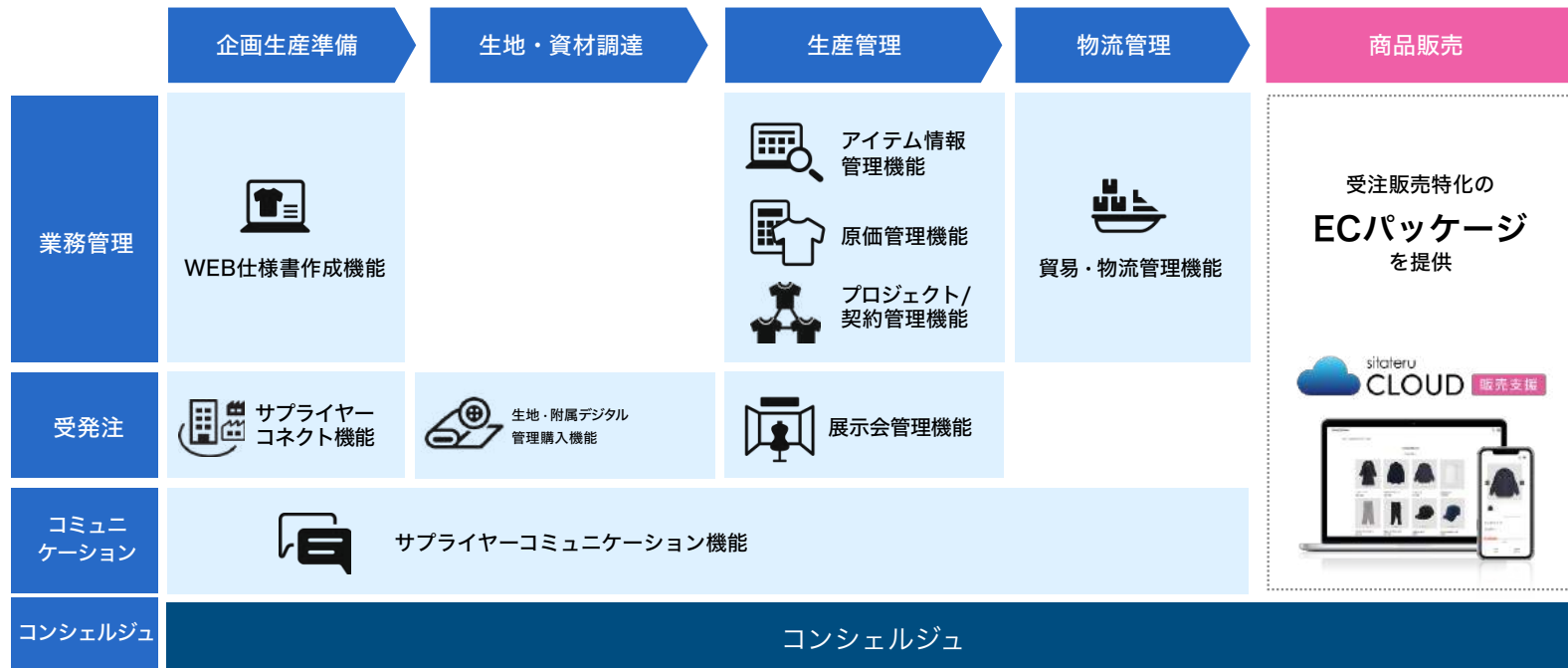
(アイテム管理・工場コミュニケーション機能を活用)



- ✓ 資料/情報をクラウド上にUP管理、ウェットな会話もクラウド上のチャットで実施。効率化とトラブル防止が同時実現
- ✓ 当事者以外も含めて情報の見える化に貢献。リモートワークにも対応しやすく、緊急代理対応なども簡単に可能

# クラウド上で衣服の生産から販売までさまざまな機能を提供

PLM機能にとどまらず、衣服生産、バリューチェーン上で必要な機能・ソリューションを提供







# ライフスタイル産業の 今とDX

**まだ先の未来ではなく、そこにある現実へ。**

新型コロナウイルスによって、風景が一変した2020年。

AI・リモートワーク・非対面による購買活動など、

世の中のDX化が急速に推進しています。

DX化は、今こそ真に取り組む課題です。



# DXとは



# DXとは

DXはデジタルイゼーションを経て実現されるものが通常で、一足飛びのDXは難しいと言われますが、DXに向かいなされるすべてのプロセスを「**DX推進**」と呼んでいます。

現状	デジタルイゼーション	デジタルイゼーション	DX
	デジタル技術を使い、既存の業務を置き換える	取引先も巻き込んでプロセス全体をデジタル化	ビジネスが変革し社会にも好影響を与える
	期待効果： ■業務効率化 ■業務付加価値向上	期待効果： ■業務・取引効率向上 ■業務・取引付加価値向上	期待効果： ■差別化・競争優位確立 ■新たなビジネスの創出

いきなりDXに移行するルートは無い

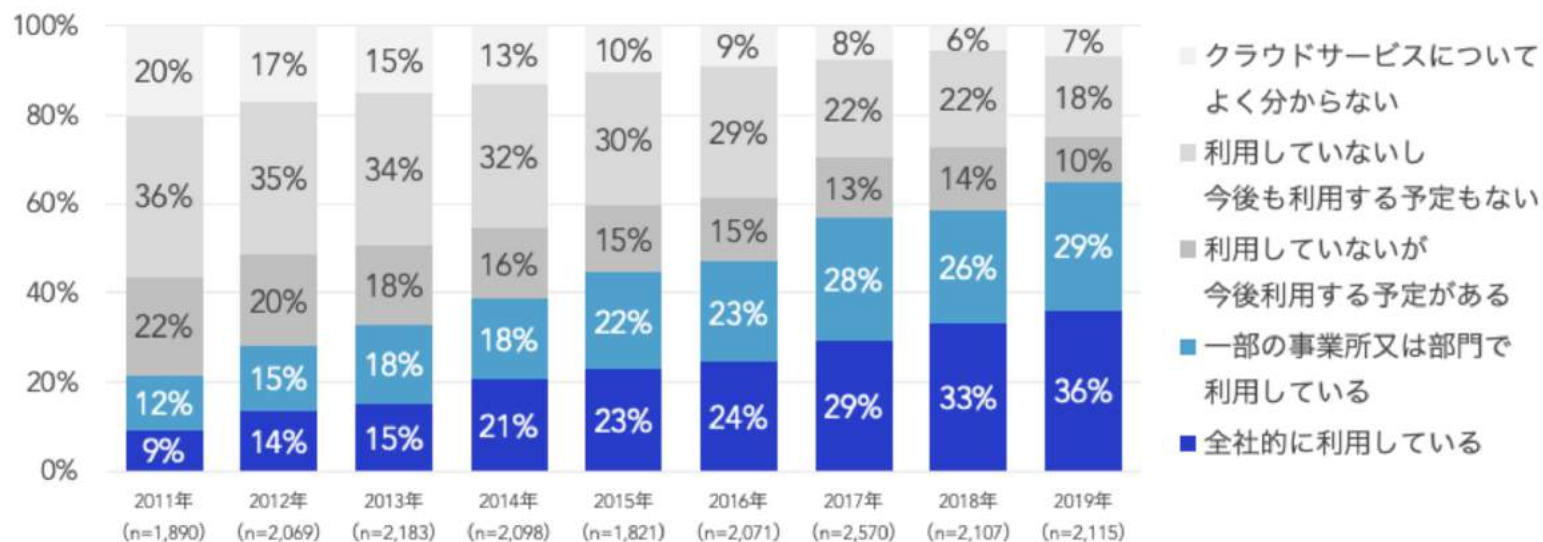
## DX推進

現状自社状況に合わせてデジタルイゼーションから始め DX を目指していく すべてのプロセスがDX推進

## システム導入の最新潮流（ツール）

クラウドサービスは近年急速に浸透がされ始めて過半を超える回答企業でクラウドサービスの利用がされています。

### クラウドサービスに関する利用状況

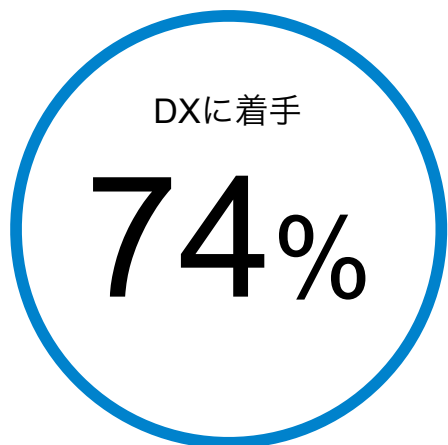


出所：総務省「令和元年通信利用同行調査」

## 急速に高まるDX推進課題

課題を解決するために「デジタル化」や「DX」が大きなテーマとなっている企業が急速に増えている一方で、何からやればいいのか？どう進めるか？始めたけど上手く浸透しないなどの課題も多いのが現実です。

経営者・システム部門の悩み



電通デジタル社発表の国内企業のうちDXに着手する企業の比率、2020年度調査結果

2020年12月18日発表

(出所：電通デジタル

<https://www.dentsudigital.co.jp/release/2020/1218-000737/>)

何から着手すべき  
かわからない

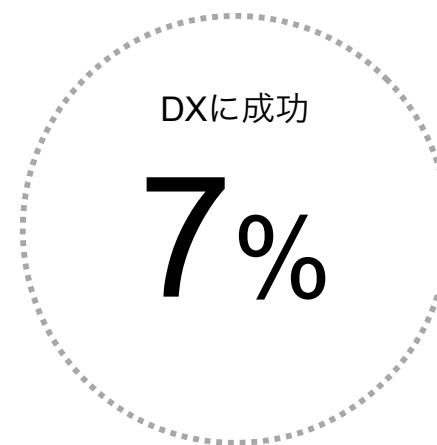
社内で足並みが  
揃わない

老朽化した既存システムから切り替えづらい

自社開発orパッケージ利用どっちが良い？

DX始めたが  
進まない

現場が反発



アビームコンサルティング社発表の国内企業のうちDXに成功したと答えた担当者比率

2020年12月14日発表

(出所：アビームコンサルティング

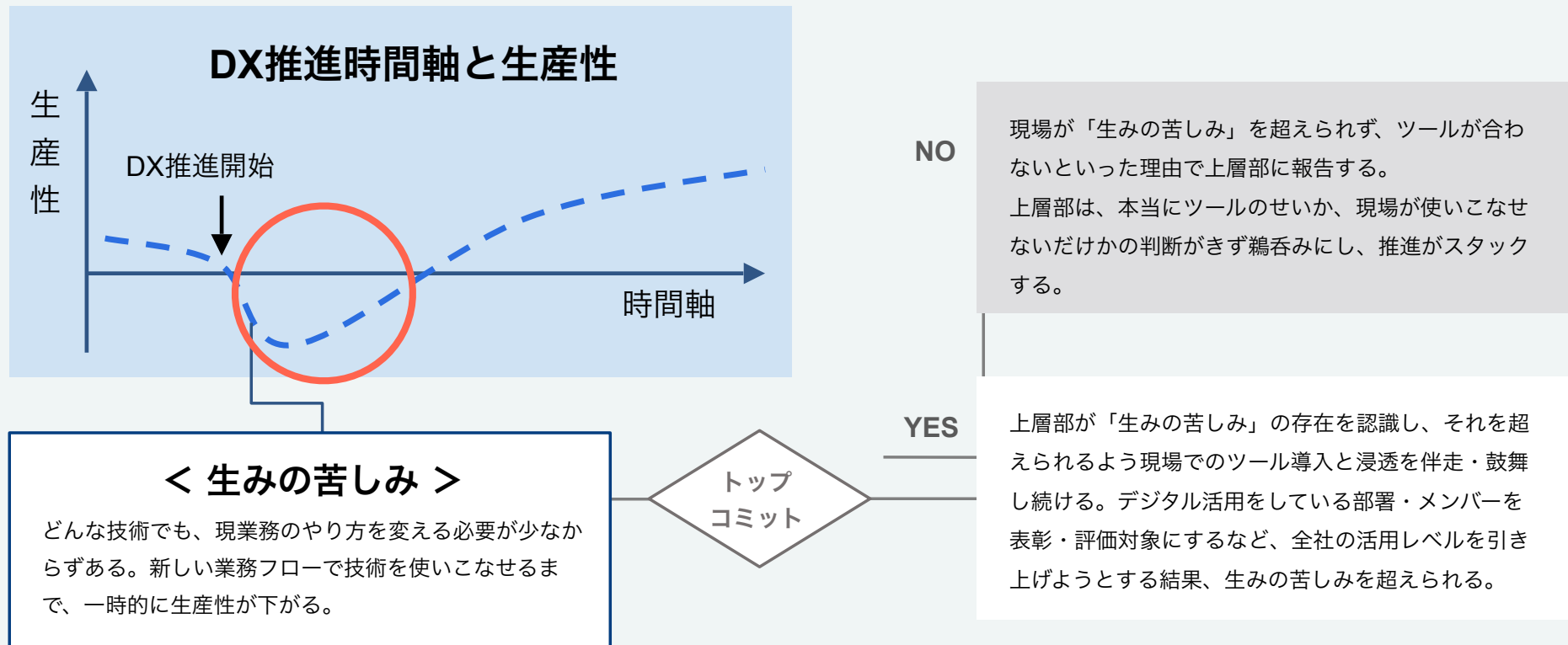
<https://www.abeam.com/eu/ja/about/news/20201214>)

# 阻害要因



# DXの社内浸透の谷

DXをスモールスタートすると、必ず「生みの苦しみ」が訪れます。  
苦しみを乗り越え成果を出すために、トップの意志と覚悟が重要な鍵を握ります。



# DX推進スタートの3つの罠

DXスタートの要諦は、DXの目的を抽象度高く設定し、その定義詳細にこだわらず、  
スモールスタートするというトップの強い覚悟と意志決定が最も重要です。

## < 定義と成果の罠 >

DXの定義や目的、何の成果を出すか  
など、社内の足並みが揃わない結果、  
なかなかスタートしない

デジタルツールを生かすことは  
すべてDX推進に寄与する。

## < コストのハードル >

導入コストが膨大で二の足を踏む、  
せめて完璧なものを作ろうと関係者  
ヒアリングを重ねるが、要件定義  
議論でスタック

導入コストが低く、幅広い  
選択肢のあるクラウドツールは、  
スモールスタートが可能。

## < 全会一致の罠 >

現場の意見も重要とし、意見集約  
しようとするが意見が一致せず、  
反対意見もありスタートきれない

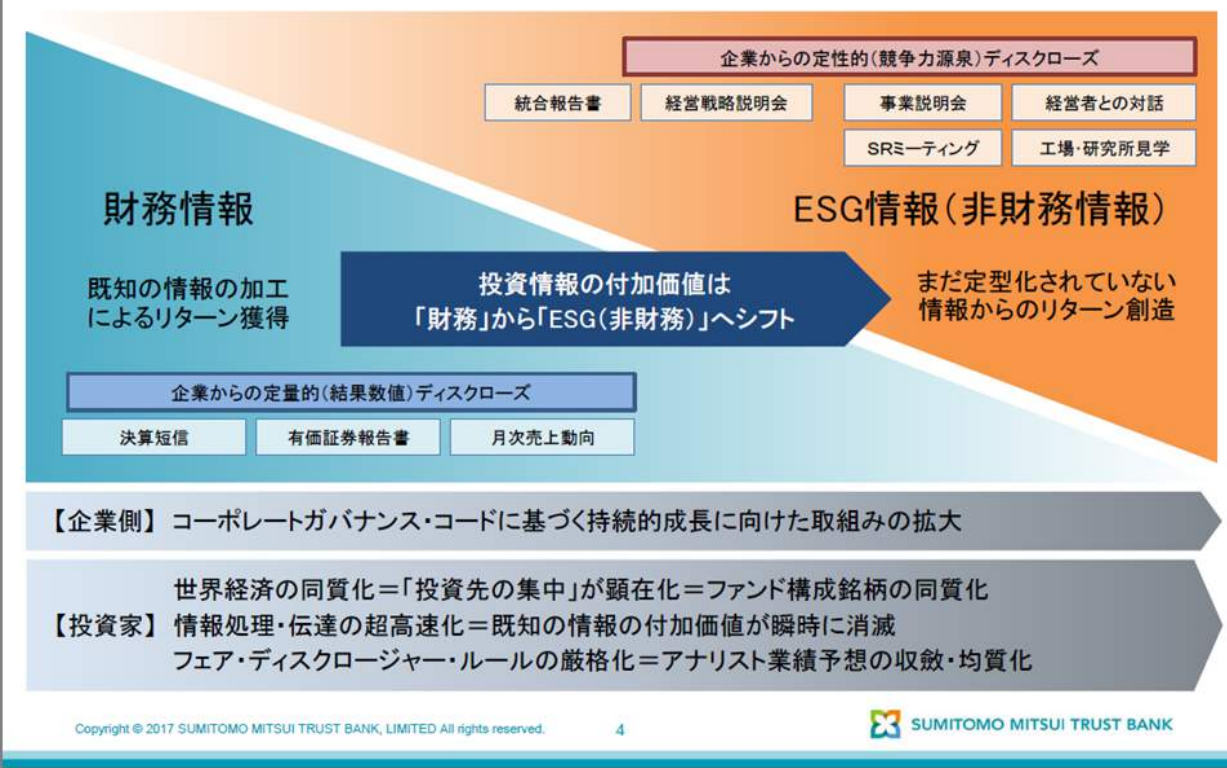
反対意見は必ず起きるが、  
まずは賛同者と共に  
スモールスタートを開始。

## ESGへの取り組み

# シタテルESGの必要性和ESG投資への高まり

非財務情報の重要性が高まり、もはや財務・非財務ではなく企業の成長のための必須条件となる。

## ◆機関投資家を取り巻く環境②(ESG投資が求められる背景)



今後の市場からの評価と変化  
環境や社会、企業統治に配慮しない企業は高リスクとなり持続的な成長は見込めない企業と評価される。他の先進国では証券会社の引受基準としてESG評価、取り組みがスタートアップにおいても必須となり、これまでの財務情報に加え、非財務情報の充実を図ることが必要となる。

参照：スタートアップとESG



The background is a deep blue, almost black, space filled with intricate, wavy patterns of light blue and white. These patterns resemble ripples on water or the flow of a liquid, creating a sense of movement and depth. Scattered throughout the scene are numerous small, bright blue and white particles, some appearing as soft, out-of-focus spheres and others as sharp points of light, giving the overall effect a digital or ethereal quality.

sitateru<sup>®</sup>  
IMAGINATION